

関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科 ビジネススクール 2009 年度秋季連続セミナー 「ファイナンス」セミナー

一部に景気回復の兆しがみえるものの、厳しい経営環境が続きます。その中で、生き残りをかけ経営統合や新規事業参入の動きが活発です。ファイナンス理論を活用することにより価値評価を通じて適正な道筋が見えてきます。このほか本シリーズでは、リーマンショック以降の金融マーケットの予測、発展著しいリスクファイナンスの課題といった興味深いテーマが目白押しです。多くの方のご参加をお待ちしています。



■ 参加費無料 事前申し込み不要 ■

- 第1回 11月27日(金) 19:00~20:00 1405教室(14階)
「歴史と論理で読む金融マーケットのこれから」



講師：岡田 克彦 経営戦略研究科准教授

- 第2回 12月3日(木) 19:00~20:00 1004教室(10階)
「パナソニックによるパナソニック電工の経営統合：シナジーの価値」

講師：平木 多賀人 経営戦略研究科教授、古賀 洋平 みずほ証券株式会社

- 第3回 12月10日(木) 19:00~20:00 1004教室(10階)
「ゲーム&ファイナンス —— トレードオフ状況における戦略の構図」

講師：甲斐 良隆 経営戦略研究科教授

- 第4回 12月17日(木) 19:00~20:00 1004教室(10階)
「金融と保険の融合：近年のリスクファイナンスの動向と問題点」

講師：前田 祐治 経営戦略研究科准教授



会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス

(アプロースタワー：大阪市北区茶屋町19-19)

お問合せ先：関西学院大学専門職大学院 経営戦略研究科

tel: 0798-54-6572 e-mail: iba@kwansei.ac.jp

～講義概要～

■ 第1回 「歴史と論理で読む金融マーケットのこれから」

講師：岡田 克彦 経営戦略研究科准教授

2008年に世界が経験した未曾有の大変動は、100年に一度の金融危機と呼ばれ、実体経済に与えた影響も1929年の大恐慌以来のマグニチュードです。しかし、前回の恐慌との決定的差異は、欧米の政府が莫大な借金をして金融システムを守り、とりあえずの危機が回避されたかに見える点です。ただ、これは危機が過ぎ去ったのではなく、大恐慌時とは異なる道筋で我々の生活に影響を与えるということだと講師は考えます。足下では、金価格が最高値を更新する一方、債券価格、株価とも高い（10月末現在）状況が現出し、未来を示唆するベクトルは一方向を示していません。運用実務に携わっている講師が、多方面の実務的情報と歴史的事実、論理的推論を踏まえた上で、これからの金融マーケットを考えるヒントを提供します。

■ 第2回 「パナソニックによるパナソニック電工の経営統合：シナジーの価値」

講師：平木 多賀人 経営戦略研究科教授、古賀 洋平 みずほ証券株式会社

2003年12月19日、当時の松下電器産業（MEI）は松下電工（MEW）株を51%まで買い増し同社を経営統合すると発表した。この結果、MEIはパナホーム株の54.7%も実質的に保有することになり、これをもって一連のグループ子会社の経営統合が終結をみるようになった。本セミナーでは、この大統合が、親会社としての松下（現パナソニック）とグループにどれくらいのシナジー効果をもたらすと期待されたのか、そして、それによってMEW株の買付価格のプレミアムが正当化されるかどうか、当時の状況に戻って分析を試みる。また、数量化できるシナジー以外の統合メリットそしてデメリットの定性的議論もあわせて、パナソニックが行ったグループ統合戦略の総括を行う。

■ 第3回 「ゲーム&ファイナンス —— トレードオフ状況における戦略の構図」

講師：甲斐 良隆 経営戦略研究科教授

現代の経営においては、不確実な顧客需要と他社との激しい競争を如何に制するかが最大テーマとなっています。また、これらの舵取りを非常に困難にさせている理由の一つに、両者の二律背反性があります。つまり、後発ないし開発の先延ばしは需要の不確実性を減少させますが、他社との参入競争には不利だといった点です。このトレードオフ関係を明らかにし、最大価値を持つ戦略を獲得するには、ゲーム理論とファイナンス理論の組み合わせが有効です。本セミナーにおいて、これらを平易に解説致します。

■ 第4回 「金融と保険の融合：近年のリスクファイナンスの動向と問題点」

講師：前田 祐治 経営戦略研究科准教授

2008年AIG（アメリカンインターナショナルグループ）はCDS（クレジットデフォルトスワップ）で巨額な負債を背負い、米国政府は公的資金を資本注入することでAIG社を倒産の危機から救済した。CDSは信用リスクのスワップであり、「保険」に似たデリバティブ取引、「金融」商品である。このように、1990年代以降、金融市場の膨張、金融工学の発展に伴い、金融を使った保険取引、保険を使った金融取引が盛んに行われるようになった。

今回のセミナーでは、保険と金融の両面を兼ね備えたリスクファイナンスの取引を紹介する。例えば、キャプティブ、ファイナイト、コンティンジェントキャピタル、天候デリバティブ、統合リスク、キャットボンドなど、金融と保険の融合したリスクファイナンスは、近年、企業のリスクマネジメントとして盛んに活用されている。しかし、リスクファイナンスの発展の反面、取引の隠蔽、会計処理の不正、利益の水増し、情報開示の不備、さらに企業倒産へ発展するケースが出るなど取引の問題点も明らかになってきた。それらリスクファイナンスの問題点についても解説する。

〈会場〉

関西学院大学大阪梅田キャンパス（アブローズタワー10階）

〒530-0013 大阪市北区茶屋町 19-19

